

海外フィールドスクール体験記

2年次に実施されるSAやSJプログラムで培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を習得することを目的に、2017年度より海外フィールドスクール(FS)を開講しました。FSは、東・東南アジアをフィールドに開発コース、芸術コース、環境コースの3つのコースで実施します(※)。具体的には地球規模問題(グローバル・イシュー)の分析力、課題発見/課題解決能力、異文化の中で表現する技能を養うことに主眼を置いています。日本と異なる環境で思考力や精神力を養い、多文化間での調査・実習や創作活動への取り組みを通して、持続可能な社会を構築できる自律的・利他的な人材育成を目指しています。
※年度や現地の状況により、開講コースが変わります。2017年度は、芸術コース、環境コースが開講されました。



環境コース

山田 茉衣さん
参加日程:2017年8月6日~2017年8月12日

環境コースでは、タイ南部のHat Yai(ハジャイ:ソクラ県)にメインキャンパスを持つPrince of Songkla大学(PSU)のプログラムに参加し、タイ南部における現代的な環境問題やその対策について学びます。

日本では「自然に優しい」と言われるパームオイルを作るために、タイの手つかずの熱帯の森林が大規模に伐採され、アブラヤシのプランテーションへと急速に転換している現実を目の当たりにしました。コンビニやファストフードの製品で良く使われているパームオイルは、現代日本の食生活に必要不可欠であり、私たちの生活が東南アジアの森林と密接な関係を持っていることを痛感しました。

最終日にはFSで学んだことをPSUの学生の前でプレゼンし、その内容についてディスカッションを行いました。英語での専門的な解説やコミュニケーションに戸惑うこともありましたが、先生やPSUの学生方にサポートしていただき乗り越えることができました。

芸術コース

新崎 棕司さん
参加日程:2017年9月2日~2017年9月10日

芸術コースは、タイ北部チェンマイのアーティスト・イン・レジデンスCompeungと、Phayao(パヤオ)にあるPhayao大学のキャンパスで実施しました。

チェンマイでは、現代美術館や博物館、ギャラリーなどの文化施設を見学、また保育園で小さな子供たちとのワークショップを実施しました。ワークショップでは互いの文化を伝え合うというコンセプトの下、学生たちは日本文化の一端を伝えるものとして、ラジオ体操をタイの園児たちと行いました。3日間滞在したCompeungは、自然に囲まれたアーティストのアーティストによる小さな村とも言うべき場所であり、助け合いとクリエイティビティに満ちた空間を体験することができました。

Phayao大学では、美術学部の学生たちとコラボレーションを実施。両大学生の交流の様子をドキュメンタリーとして撮影しました。現地の人々との言語でのコミュニケーションが難しい分、実際に体験し触れ合うことで、異文化理解が深まると共に、言語を越えたコミュニケーションやアートのあり方について学ぶことができました。



Q&A SA・FSについて

Q1. 英語以外に外国語を学んだことがないのですが、諸外国語圏のSAに参加することは可能でしょうか？

A. 諸外国語圏のSAに参加する学生の大半は、大学に入学してからSA先の外国語を学び始めています。SAに参加するまでに、現地で必要とされる語学力が身につくよう授業が設けられていますので、心配しなくても大丈夫です。

Q2. SA先はいつ決定しますか？

A. 諸外国語圏(英語圏以外)のSAを希望する場合には、入学した年の4月に決定します。英語圏のSAを希望する場合には、4月に英語圏に留学することが決定し、1年春学期の成績と7月もしくは8月に行うTOEIC®-IPの結果などをもとに、11月に英語圏のどの大学に留学するかが決定します。

Q3. SAのほかにもう1年留学したいのかが可能ですか？

A. 派遣留学制度、認定海外留学制度を利用した留学が可能です。国際文化学部では、留学を2年間までは修業年限として認めていますので、SA後、3年次で1年間の留学をしても、必要単位を満たしていれば4年間で卒業することができます。

Q4. どうすればFSには参加できますか？

A. FSの参加は、SAもしくはSJプログラムに参加し単位を修得していることが条件となります。また、FSは全員が受講しなければならない必修授業ではなく選択授業です。希望する学生の中から志望理由や語学スコア、面接などを基に選抜を行い、参加者を決定します。